

令和元年度 第1回 総合教育会議 会議録（要約）

期 日	令和元年7月23日（火）10時00分から11時25分
場 所	雲仙市役所別館 3F 会議室2
出 席 者	市長部局 金澤秀三郎市長 教育委員会部局 山野義一教育長、前田眞一教育長職務代理者 平山田鶴子委員、中村妙子委員、森下祐樹委員
説 明 員	教育委員会事務局 下田教育次長、小松総務課長、草野学校教育課長、 本田スポーツ振興課長、中島生涯学習課参事補、 森田総務課参事補、小田総務課主事（記録）

会議日程

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議事
 - （1）雲仙市教育大綱の策定について
 - （2）各課の取り組みの現状と課題について
- 4 その他
- 5 閉会

【10:00 開会】

1 開会

2 市長あいさつ

金澤市長 平成26年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により設置された総合教育会議も今回で通算9回目となり、これまで教育行政に関する多くの課題について意見交換を行ったが、本日の会議においては「雲仙市教育大綱の策定」を中心テーマに、忌憚のない意見を賜りたい。

3 議事事項

議事(1) 雲仙市教育大綱の策定について

※事務局から、(1) 雲仙市教育大綱の策定について説明する。

金澤市長 雲仙市教育大綱の策定について、教育大綱を策定することについての可否、教育大綱のスタイルをどうすべきかについての意見はないか。

前田委員 教育大綱の策定は他市の状況を見ても、また、方向性を示すためにも必要だと思う。

中村委員 教育大綱の策定に異議は無い。様々な資料を見たが、教育に関するいろいろな計画や目標たくさんがあって、何を頑張れば良いか分からないのもっと整理して欲しいと思うので、教育大綱には他の計画との整合性や市の教育の方向性を示せると良いと思う。

森下委員 教育大綱は策定するべきだと思う。市民にも理解してもらえるようにシンプルで分かりやすい計画が良いと思う。

平山委員 教育大綱を策定するべきだと思う。シンプルな計画が良い。

山野教育長 教育大綱を策定する時期に来ていると考えている。

金澤市長 前回の様に教育大綱を策定しない方向で行くと、第2次雲仙市教育振興基本計画がそのまま教育大綱になるという理解で良いか。

小松総務課長 教育振興基本計画が変わるとその計画がそのまま教育大綱になるわけでない。基本計画の内容を精査し、教育大綱に相応しいか総合教育会議で再度協議して頂いたうえで決まる。

金澤市長 教育大綱を策定するという事で良いか。

全委員 異議なし

金澤市長 内容については、様々な意見が出たので、今後、教育委員会の中で案をまとめてもらい、次回の総合教育会議で再度協議を行いたいと思う。

金澤市長 それでは、(2)の「各課の取り組みの現状と課題」について事務局より説明をお願いします。

※事務局から、(2)各課の取り組みの現状と課題について説明する。

金澤市長 各課の取り組みの現状と課題について、何か意見はないか。

前田委員 施設の管理について、老朽化した施設は管理が行き届かない傾向にある。中にはボランティアで掃除をしてくださる人も居てその施設は綺麗である。ボランティアで清掃をしたいと思っている人も居ると思うので活かさないだろうか。

平山委員 掃除をしないのではなく仕方を知らない人もいると思う。掃除の仕方の資料があると掃除の仕方を知らない人には良いと思う。

中島生涯学習課参事補 社会教育施設の清掃については、通常は管理人が行い、年2回業者に委託している。清掃の方法については今のやり方をベースにしながら施設が綺麗に保てるように今後検証していきたい。

本田スポーツ振興課長 社会体育施設については、基本的にシルバー人材センターに依頼しているが、女性の清掃員の方にきめ細やかに掃除をしてもらっている。ただ、施設の中には週に1回だけ業者に清掃を依頼しているところもあり、週に1回では不足するので施設を利用する小・中学校の部活動等に依頼するなどして対応している。

中村委員 電子黒板やI C T等の情報教育の研修に力を入れているが、私としては、その他にいじめの発見や、小学校の英語教育の研修会をして欲しい。また、研修会に気軽に参加できるような職場環境づくりを進めてほしい。夏休みの時期に研修会が多く入るが、夏休みは教職員のリフレッシュに充てて欲しいので学期中に研修会を開いてもらい希望する教職員が気軽に参加できるように、働き方改革が進めば良いと考える。

草野学校教育課長 研修の開催時期は苦慮している。働き方改革を進めなければならない一方で、小学校の授業時数が増えるなど、課業日は時間の余裕がなく、夏休みに研修会を入れざるを得ない状況である。働き方改革は教育委員会としても力を入れて取り組まなければいけない重要課題だと考えている。

森下委員 教育委員会の予算を見ると様々な事業に大きな金額を要している。人を増やせば良いという訳ではない。教育委員会事務局は市民の色々なニーズを取り入れて、事業の充実に向け改善されていると思う。

部活動についても顧問の先生は大変で休みが取れない。指導者から見ると練習時間が減り不満に思う人もいるので課題は1つ1つ改善していければと思う。また、どの競技も競技人口の減少が進んでいるが、小学校の陸上教室を開催すると参加者が大変多い。講座についてもチラシを見ただけで食いつく、魅力ある講座をしていければと思う。

本田スポーツ振興課長 水泳、陸上教室は希望者が大変多い。基礎スポーツについては、保護者の関心も高いように思う。

平山委員 市の総合計画の目標では、不登校の人数を平成26年度の実績14名を令和3年の目標を現実的にはとても難しい5名以下に設定しているが、どういう理由があるか。

草野学校教育課長 計画策定時点では、不登校を「早期解消すべきもの」としての認識のみだったためと考えている。不登校児童・生徒への支援について本市では、訪問指導員が各家庭や学校などへ出向き個別に支援している。また、スクールソーシャルワーカーも県から1名配置していただいているが、主に家庭への支援をしてもらっている。不登校児童・生徒は学校復帰がゴールで学校へ早期に復帰させたいという思いはあるが、児童生徒の状況に応じて早期の学校復帰だけでなく長い目で支援する必要もある。

平山委員 家庭が要因で不登校の子もいると思う。子どもは親を一番見ている。親の態度や家庭環境が変われば良いと思うのでそういうところの支援はどうか。

草野学校教育課長 家庭的理由で不登校になる児童・生徒もいる。家庭訪問をすると親の悩みや家庭生活習慣の問題などの相談もある。ケース会議を通じて、子ども支援課や保護課などと協議しながら支援を進めている。

山野教育長 成果指標について、人数だけの成果指標については限界があると考え。様々な計画の指標についても検討しなければならない。満足度や内容、中身に重きを置き取り組みたい。

金澤市長 他に意見がなければ、ここで議事を終了したいと思う。

【 1 1 : 2 5 閉会】